

	中間経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標（☆は取組指標，★は成果指標）	中間（10月）		最終（3月）		結果と課題の分析		
					指標評価	評価	指標評価	評価			
確かな学力（知）	「主体的な学び」促す授業の質を高めることにより、これからの社会で活躍することができる生徒を育成する。	学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>質の高い課題100%提出への組織的な取組</li> <li>基礎・基本の確実な定着のための帯学習</li> <li>各種検定の受検率と合格率を高める取組</li> </ul>	☆宿題完全提出の取組について、達成率100%にする。	b	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題提出率は1学年94.0%、2学年96.7%、3学年93.7%と全学年ほぼ定着している。課題として、未提出生徒が固定化している。⇒放課後の補充体制を継続して行い、組織的に指導していく。</li> <li>○英語検定25.9%の受検率である。（数学検定は11月実施。）受検料補助対象の英語検定は全員受検に至っていない。⇒各種検定にチャレンジすることの意義を再確認させ、三者懇談会等の機会に保護者にも啓発していくことで第3回英語検定の受検者数を増加させていく。</li> <li>○全国学力学習状況調査（第3学年5月実施）の結果は国語77%、数学78%であった（全国平均：国語64.6、数学67.2）。⇒課題に即した授業改善を進める。</li> </ul>		
				★全学年受検率を英語検定で60%以上、数学検定30%以上とし、卒業時の3級保持者の割合を英語検定60%以上、数学検定30%以上にする。							
				★全国学力・学習状況調査において、国語、数学で全国平均以上にする。	a						
				★三次市学力到達度検査において全学年の各教科平均値を全国平均以上にする。							
豊かな心（徳）	集団の力を高め、豊かな感性と行動力のある生徒を育成する。	主体的な生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会の自主活動の推進</li> <li>専門部会を中心とした課題発見・解決</li> <li>いじめ0プロジェクトの継続・深化</li> </ul>	☆学校生活における諸課題について、自ら課題提起し、解決しようとする生徒を育成する。	a	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が課題意識を持つことができるよう、目的を明確化して、計画的に行事や取組をさせた。</li> <li>○「生徒会の活動に、真剣に取り組みましたか、」という項目に対して、当ではまる「63.3%」、やや当ではまる「34.7%」で、ほとんどの生徒が肯定的評価をしている。2学期は、文化祭や部活動体験等の行事に向けて、執行部を中心に、目的を理解した上で、取組をさせていく。</li> </ul>			
				★生徒会活動で主体的に取り組んだことを書ける生徒を80%以上にする。	a						
		集団の質的向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己指導能力と社会性の向上を図るための積極的な生徒指導</li> <li>生活意識アンケート・デイリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し、面談とSCによるカウンセリングの実施</li> <li>道徳的価値の自覚を深める授業</li> </ul>	☆いじめセクハラ体罰アンケートをもとに実態把握し取り組む。	a				A		<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者、生徒アンケートを実施した。セクハラ・体罰に関してはともに0件。</li> <li>○生徒アンケートからいじめに関して「聞いたことがある（いじめはないが、特定の人を馬鹿にする雰囲気がある）」が1件、保護者アンケートから「聞いたことがある（昨年度の事案）」が1件であった。</li> <li>○日常からデイリーライフでのやり取り、SCの授業観察を行っている。</li> <li>○これまで全学年、担任との教育相談、SCによる面談を実施した。</li> <li>○i-checkにおいて、いじめのサインのスコアが1年56.1% 2年55.7% 3年54.0%である。また、対人ストレスのスコアが1年53.8% 2年54.2% 3年52.3%である。</li> <li>○道徳に関するアンケート（7月実施）において、98.0%の生徒が『「道徳の時間」で友達と話し合う等して自分の考えを深めたり、広げたりしている』に肯定的に回答した。</li> </ul>
				☆生活意識アンケート・デイリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し、面談とSCによるカウンセリングを実施する。	a						
				★i-checkで、いじめのサイン・対人ストレスを標準スコア50以上にする。	a						
				★「道徳科」では、「友達と話し合う等して自分の考えを深めたり、広げたりしている。」を90%以上にする。	a						
健やかな体（体）	生活習慣の定着と体力の向上を図る。	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との連携による三点固定（就寝時刻・起床時刻・家庭学習開始時刻）の取組</li> <li>「ストップ9」の取組</li> </ul>	☆体力づくり計画による体育の授業の実施をする。	a	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育科の補強運動として、腕立てや腹筋、馬跳び等を定期的の実施した。</li> <li>○生活リズムチェックで、起床時刻81.6%、就寝時刻61.2%、家庭学習開始時刻87.8%、ストップ9は75.5%達成しており、平均達成率は76.5%である。</li> </ul>			
				★三点固定の取組を行い、定着率を75%以上にする。	a						
	基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力づくり計画による体育授業の実施・新体力テストの課題種目の再実施</li> <li>部活動（運動部）の充実</li> </ul>	☆体力づくり計画による体育の授業の実施をする。	a	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>○本年度、新体力テストは第2学年のみ県平均が公表されており、当該学年のみ比較を行った。男女合計で16種目中14種目(87.5%)が県平均を越えている。継続して、平均を越えなかった種目へのアプローチを行う。</li> <li>○「あなたは部活動に主体的に取り組んでいますか。」という項目に対して、当ではまる「77.6%」、やや当ではまる「20.4%」である。また、「あなたは部活動に満足していますか。」という項目に対して、当ではまる「42.9%」、やや当ではまる「44.9%」である。ほとんどの生徒が肯定的評価をしているが、昨年度より数値が低下している。部活動の取組について見直していく。</li> </ul>				
			★新体力テストで、県平均以上の種目を70%以上にする。	a							
信頼される学校	働き方改革を推進し、組織力を向上させ、「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。	組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革の推進</li> <li>組織的な学校運営の強化</li> <li>不祥事防止研修の充実</li> <li>小中一貫教育の発展</li> <li>地域力を生かしたカリキュラムの実施</li> </ul>	☆働き方改革について研修の機会を持ち、業務改善が進んでいるか学期に1回振り返りを行い、改善を進めていく。	a	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員アンケートの結果、「学校経営への参画意識をもち、協働して業務を遂行している」を肯定的に答えた職員の割合は90%だった。また、職場の働き方改革を進める上で、職員それぞれが時間の有効活用を意識し、「できるだけ生徒の活動に関わることができるようにしている。</li> <li>○不祥事防止研修は年間12回を予定しているが、9月末までに6回実施している。</li> <li>○校区小中一貫教育合同研修会を実施した。</li> </ul>			
				☆不祥事防止研修は、主任や主事、学年会で担当を決め、主体的な研修にする。	a						
				☆小中一貫教育推進協議会を中心に小中合同研修会を開催する。	a						
				★地域探究学習後の生徒アンケートで「ふるさと甲奴に誇りをもっている」の肯定的評価を90%にする。							
					指標評価・評価	a・A	b・B	c・C	d・D	e・E	
					基準	100%以上の達成度	80%以上100%未満の達成度	60%以上80%未満の達成度	40%以上60%未満の達成度	40%未満の達成度	
						十分に目標を達成できた	概ね目標を達成できた	ある程度目標を達成できた	あまり目標を達成できなかった	目標を達成できなかった	